修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町1-17-1（NK第一ビル）☎03(5259)0631
振　替　00160－7－36337

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

全修協「修学旅行ホームページ」5月1日いよいよオープン

http://www.d2.dion.ne.jp/~shuryo

急速な発展を続ける情報化社会に対応すべく、当協会はいよいよ5月1日よりインターネットを利用した「修学旅行ホームページ」を開設した。

21世紀を目前にして、学校教育現場ではパソコン普及率がめざましく、このホームページの利用により修学旅行関連情報を正確かつ迅速に入手することが可能となる。

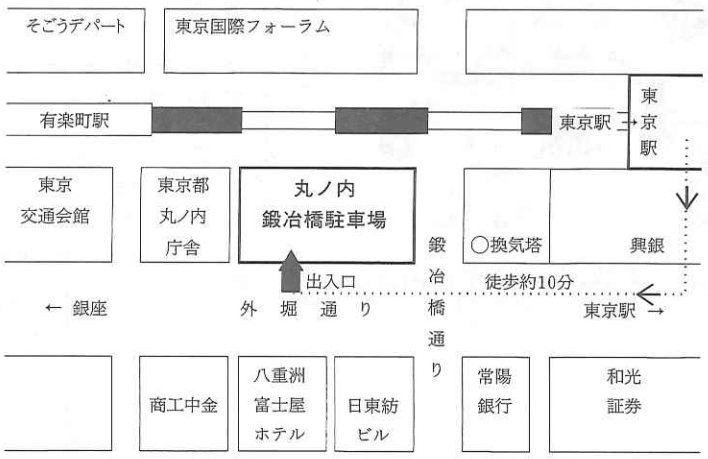
環境、体験、福祉、海外、航空機利用など修学旅行の多様化に対する最新情報をはじめ、修学旅行の現状を示す調査・研究データ、各学校の実施事例や、その他修学旅行全般に関連する教育界・関係機関の発信するニュースのほか、現代及び将来的に修学旅行が抱える諸問題の分析、有益な情報など、多方面に渡った情報を段階的に拡充・整備してゆく予定である。

東京駅における団体貸切りバスの乗車場所の変更について

従来より東京駅北口の路上で貸切りバスが団体客待ちをし乗車しておりましたが、平成11年4月20日より東京駅から有楽町駅方面へ徒歩約10分程の所にある「丸ノ内鍛冶橋駐車場」にて貸切りバスへの乗車をすることとなった。

貸切りバスが付近一帯の路上を埋め尽くし交通渋滞を引き起こしたり、待機の際の排気ガスの増大等により付近のビル勤務者や、通行する車輌の運転者からの110番通報が相次いだことと等による。今後当路上は駐車違反の対象となった。

東京駅より貸切りバス使用の場合には以上のような状況により列車到着からバス出発まで少なくとも30分以上のゆとりを持って行動することとなった。駅より駐車場までの間に鍛冶橋通りの信号を渡ることになり充分な注意が必要となる。尚、当駐車場にはトイレ設備がありませんので列車又は駅にて済ませてから駐車場に誘導するようになる。



東京駅学生団体待合（集合）場所の変更について

従来より利用していた東京駅日本橋口団体待ち合い場所が平成11年5月8日（土）から当分の間（別途指示あるまで）建築工事に伴い利用出来なくなる。

今後、東京駅での学生団体待ち合い場所は、丸の内地下1階南口改札前から丸ノ内自由通路までの広場となるので、東京駅での集合には充分な注意が必要となる。

楽しい班別自主学習
栃木県真岡市立真岡東中学校

修学旅行における体験学習と班別自主学習

＝主　張＝

風薫る五月、ゴールデンウィークも終わり春季修学旅行の最盛期を迎えた。時代とともに、修学旅行を取り巻く状況も変容してきている。なかでも修学旅行への取組みかたが大きく変わり、特に体験学習が強調され、その方法として、いわゆる班別自主学習の形態が定着してきた。町では、メモを開いて相談するグループやタクシーを利用して、歴史文化遺産の建物や美術品を鑑賞している生徒たちの姿が目立つようになった。

最近の体験学習先をみると、企業・官公庁の訪問や農漁村体験からお店の手伝い、伝統工芸品製作・工房見学、芸能鑑賞、修養体験、エコ・自然体験など実に広範囲にわたっている。その学習単位は、班を主体とし、学級、学年単位の体験学習は内容も含めてはごくわずかといえる。

ところで、その学習内容は、例えば、地曳網や物つくりなど未知で興味ある体験であろうが、ただ単に生徒の個人的経験に終わってはいないだろうか。学習指導要領の「…望ましい体験を積む…」を短絡的に、ただ単に体を動かすことのみに限定してしまったり、体験的であれば新しくて、望ましい方向であるかのような錯覚に陥ってはいないだろうか。さらに、班別自主学習＝体験学習といった受けとめ方があるようだ。

「体験学習」とは対象へ生徒自身の身体（五感）によって働きかけ、試行錯誤を繰り返しながら事実や法則を認識する過程であるといえる。その過程は、基本的には「個」に即すべきものであるが、敢えて一般化すれば次のようなプロセスが必要と考えられる。

・まず、体験すべき対象を明らかにし、対象への興味・関心の喚起、動機づけなどの事前学習

・対象にそれぞれが直接ふれること、身体いわゆる五感の働きを通した認識・理解

・体験の再構築、文章化・絵図化・発表・展示・説明など創意を生かした事後の確認

といったプロセスである。

そこには、主体的に学ぶ意欲や生きる力を育む視点からのアプローチ、さらには生涯学習への位置付けも求められる。

このようなプロセスから修学旅行の体験学習を考えてみると、多くの場合「対象」のとらえかたが抽象的であり、直接体験も視覚的認識にとどまり、事後の確認も形式的なものになっている様に思われる。

修学旅行は平素と異なる豊かな体験的な活動の場を多く生徒に与えることができる。また、生徒同士が話し合ったり、旅館や訪問先の人々との心の交流を図ったり、福祉施設を訪問して、ボランティア活動を行ったりして、心豊かな情操を高めることもできる。このような活動を通して、生徒たちは広い知識や考え方で、自らを高め、主体的に問題解決を図る能力や、人間としての生き方・在り方などを身に付けていくものである。

体験学習は修学旅行の持つ現代の教育的意義を踏まえて、新しい創造を生み出し、生涯に役立つ「生きる力」の育成に発展できるようなものでなければならない。その体験学習を学校がどう扱い、そして、修学旅行全体の中にどう位置付けるかということが最も重要である。そして、「修学旅行」といわれるように、多角的な観点に立ってこそ、まさに「学を修める」旅行になるのではないか。

風紋

先日、熊野御幸記古道ウオークの出発式が京都市の城南宮で行われた。古式に則した儀式の後、山伏装束などに身を包んだ隊列が雨中の境内を練り歩いた▼「人と自然が共生し、心と体を癒し、新たな活力を生もう」とする南紀熊野体験博は、四月二十九日から九月十九日まで開催される。熊野古道ウオークはその一環を担うもので、歌人藤原定家の歩いた道の約半分、一七〇キロを中辺路・熊野等五ゾーンに分け、一般市民も参加する。道中では、王朝の昔法皇一行が参詣の途中に行なった行事を再現するなど、多くのイベントを楽しむという▼伊能ウオークは二年がかりだ。一月から始まった日本一周の旅は、四十七都道府県から百万人が参加し、二十一世紀初頭の元旦にゴールするという壮大なものだ。日本歩け歩け協会・朝日新聞社ほかが主催し、国土地理院や近畿日本ツーリストが特別協力をしている。忠敬は五十歳を過ぎてから暦学・天文学を学び、五十五歳を契機に実測を始め、三七三六日、四四〇〇〇キロを歩き、十七年かかって日本全図を作った人だ▼健康ブームで万歩計ばやりのこの頃だが、忠敬は歩測で挑んだ。測量だけでなく、名所・旧跡・社寺等には必ず立寄ったというから驚く▼「歩け歩け　歩け歩け　南へ　北へ　歩け歩け」（高村光太郎）。五月。修学旅行の最盛期。爽やかな風を受けて、班別学習の児童生徒たちは今日も各地を歩く。（北）

教育の窓

教師考

東京農業大学教授
前文部省初等中等教育局主任視学官
渡部邦雄

教師に関する多くの言葉がある。訓導、教師、教員、教論、先生、教授をはじめ、師範、師匠、親方、師表、指南など様々な呼称である。

このように表現の違いは多様であっても、言わんとしているところは、教授する人、教育する人を指している。

すなわち、教師とは、①学術・技芸を教授する人②公認された資格をもって、児童・生徒・学生を教育する人、教員　③宗教上の教化をつかさどる人（広辞苑）なのである。

しかし、この世の中には数多くの多様な「教師」が存在しており、その持つ意味もまちまちと言える。

例えば、医師、議員、弁護士、税理士、会計士などもその範疇に属しているようである。本来の「師と弟子」との関係からは離れた使われ方をしている。最近その傾向が強く、安直に用いられているのではないだろうか。兎も角、「先生」と呼んでおけば無難だとの思惑が見え隠れする。

また、「先生と言われる程の○○でなし」などのように、尊称とともに、揶揄した表現もよく耳にする。

これは長い間、何世代にわたっての教師の言動が言わしめたことであろう。立派な教師の存在とは別に、このような学習を積極的としてとらえて、教師の立場にあぐらをかいていてはいけないのである。

例えば、「総合的な学習の時間」の「ねらい」を達成するためには、学校の実態に応じて、横断的・総合的な学習活動を工夫する必要がある。グループ学習、異年令集団による学習などの多様な学習形態、協力的な指導体制への対応も考えなければならない。そのためには、先ず教師自身が大きく変わらなければならないのだ。

教師としての高い職見、使命感、実践的な指導力を身につけ、人間的に魅力ある教師を目指そうではないか。

さらには、教育指導面のみならず、市民としての常識に関しても、学校の常識と社会の常識とのズレがないように十分に心すべきだ。学校の教師たるもの、十分自戒しなくてはならない。

「師と弟子」と言う関係において、体験的、問題解決的な学習活動を工夫する必要がある。グループ学習、異年令集団による学習などの多様な学習形態、協力的な指導体制への対応も考えなければならない。そのためには、先ず教師自身が大きく変わらなければならないのだ。

教師としての高い職見、使命感、実践的な指導力を身につけ、人間的に魅力ある教師を目指そうではないか。

さらには、教育指導面のみならず、市民としての常識に関しても、学校の常識と社会の常識とのズレがないように十分に心すべきだ。学校の教師たるもの、十分自戒しなくてはならない。

異質の他者の存在は当然の前提として、学説、主義主張などの相違点を克服し、自由に、共に討論し合う、聞く耳を持つ、そのような教師の姿勢が大切である。

特に相手が児童生徒の場合はなおさらであろう。

今次の学習指導要領の改訂に際して、体験的・問題解決的な学習、自主的・自発的な学習の促進が謳われている。教師主導で、児童生徒に知識を注入した暗記型、受け身型の学習からの脱却が求められている。

児童生徒の興味・関心を重視し、彼らの内発的学習意欲を喚起し、彼ら自らが課題を見付け、自ら学び、自ら考える学習を展開していくのである。

彼らを励ますことなどが大切になる。

教師と児童生徒の関係を上述の「師と弟子」の関係に位置させ人を見下し、自分はえらい人物だと思い込んでいる一方、実はその裏で嘲笑されていた。そんな教師が存在していたと言う経緯があるようだ。

弟子が師に反論したくても、師への遠慮があったり、面子を壊さないようにと配慮したりしていることに本人は気付かない。自説が常に正しく、他人の説に聞く耳をもたない。反論されようものなら、自分の全人格を否定されたかの如く怒り狂う。残念ながらそのような教師が、大学をはじめとして各学校に多いのではないだろうか。

東北地方の豊かな自然と歴史文化体験

修学旅行における環境学習研究・実践レポート　Ⅳ

群馬県桐生市立昭和中学校

一　修学旅行概要

昭和中学校　小島英一郎校長、引率・尾身正治教頭、三年生四五人の修学旅行は、平成十年五月二六日から二八日の二泊三日、岩手県宮古市、遠野市を中心に実施された。

（一）修学旅行の特色と環境学習との接点

東北地方の豊かな自然・歴史文化に直接ふれる体験学習により、自然保護の重要さを認識するとともに自然・文化を守り育てていく心情を育む

（二）環境学習展開の場所

・自然観察学習＝龍泉洞、宮古、浄土が浜、げいび渓

・生活文化体験学習＝遠野市水光園・伝承園・カッパ淵・デンデラ野・他語り部菊池ヤヨさん

・歴史文化遺産学習＝中尊寺

二　研究実践の内容

（一）事前指導

①社会科・学級活動

ガイドブック・インターネットなどによる事前学習、地形・歴史自然・風土、伝統文化、生活・食物を調べ、自分たちが体験したいものを選択し、日程・コースを決定

②国語科

遠野むかし話の学習

（二）現地での学習

第一日目（自然体感）

早坂高原・龍泉洞

第二日目（海から山への地形の変化・生活の変化・環境の変化）

午前　リアス式海岸と浄土が浜、船に乗る、うみねこに餌をやる、感動の海体験、海の汚れと海の生き物、人間からは学ぶことのできない壮大な自然と自然の関わり

午後　レンタルサイクルによる遠野の史跡めぐり、班別研修　十一班編成

宿泊　南部曲がり家・郷土食、語り部の話（東北のことば、遠野むかし話）

第三日目　歴史文化体験と景勝体験

中尊寺、金色堂の歴史と文化、げいび渓船下り、自然との一体感を体験

・海のない群馬県の生徒達にとって、船やうみねこの餌付け、群れなす魚など初体験が多かった。海に流されたごみやビニールを飲んで死んでしまった海の生き物たちのニュースを思い出している生徒もいた。

・龍泉洞では、学校や映像からは学ぶことのできない壮大な自然を目のあたりにして、あちらこちらで歓声があがったり、絶句したりしていた。

・遠野の豊かな自然のなかでは、日本の歴史の中を走り、心豊かになっていった。しかし、観光地では、ゴミが散らかっているのを見て、見て感じて、考えてくれることで、義務教育終了のまナーの大切さを感じていた。とめとすると共に、日本の・自然からの恵みを受けた食事は、一日めの夕食の海の幸、二日目の夕食の山の幸と保存の知恵、三日目の昼食の河の恵みであった。店にいけばなんでも手に入る現代でも、その土地、その季節の食文化があることを知り、満喫していた。また、恩恵を受けるには、自然を大切にしなければならないことも感じた。

（二）修学旅行終了と今後の課題

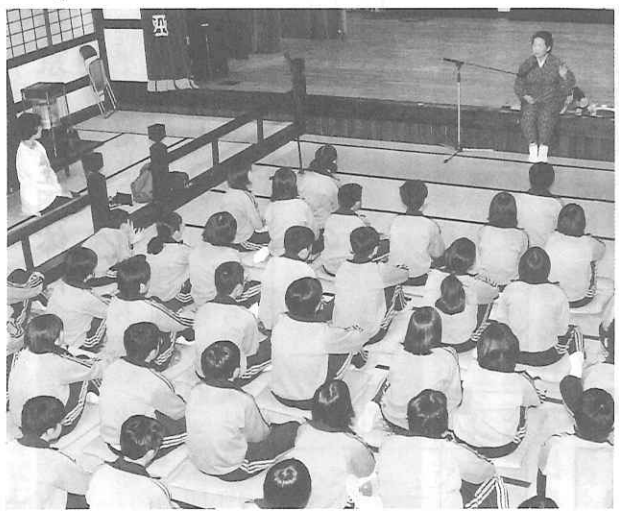
東北地方は踏み荒らされていない日本の〝風景〟が残っていると考えられる。

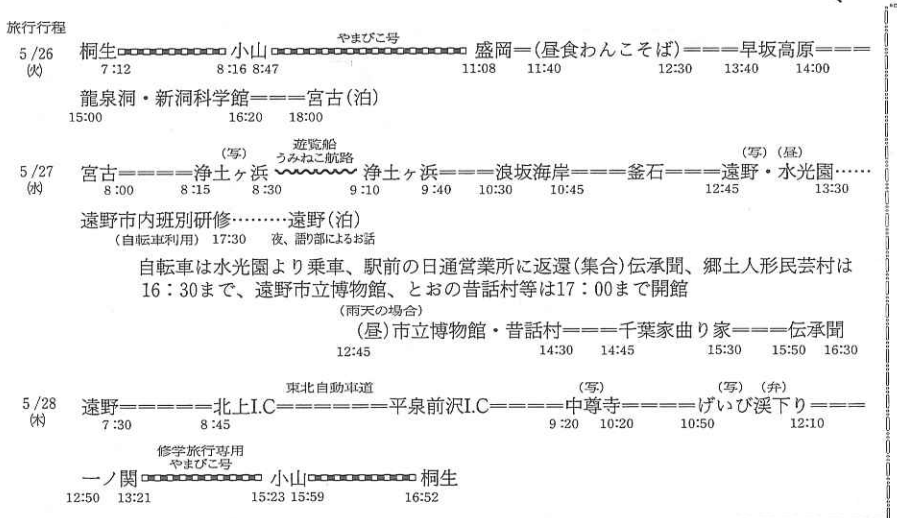
〝風景〟とは、海と山とが隣接する日本の地理的特徴や、リアス式海岸などに見える風景だけではなく、そこから生まれてきた日本の文化や、自然と共存している人間の生き方までも含まれる。それらの〝風景〟を心に焼き付けておいて欲しい。そして、各自の生活の中で、自然や環境との共存、環境保護について心を動かして欲しいと願い、生徒の自主的な活動、行動を実践した。

ほしいものが何でも手に入り、ほしいものだけを求めてしまうような風潮のある生徒たちが、二泊三日の東北旅行で得てきたもの、美しい日本を感じ、海外にも誇れる日本を残し、また新たに作っていく為に、自分に何ができるか。観光地でのゴミや、美しいうみねこや魚たちの横に浮かぶビニールを見て感じたことをいかに実生活と結び付けていくことができるか。また、そのことを長く忘れずに、環境について常に気を配ってことができるかが今後の課題である。

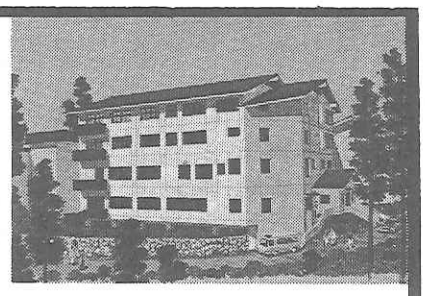
三　研究実践の成果

（一）生徒の変容





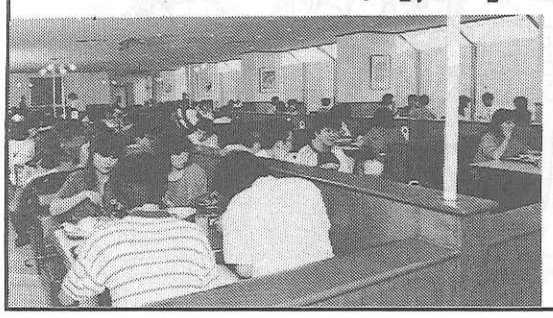
座禅体験で
〝心、リフレッシュ!!〟
清潔、安全、快適、
安心のお宿



本館	17室	194帖	120人
比叡	28室	260帖	200人
北嶺	15室	160帖	130人
計	60室	614帖	450人

〈国際観光旅館〉
比叡山　延暦寺会館
TEL　0775－78－0047・0554
TELEX　5464－917
FAX　0775－79－5053

——修学旅行の楽しいお食事——
箱根彫刻の森美術館内
レストランコンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。
〒250-0407
神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）

古代文化邪馬台国ルート
壱岐へ…

魏志倭人伝に一支国の名で記されている。
古代大陸交流の要としてクニを構えていた壱岐。
イルカとの共生をはじめ自然とのふれ合いが出来る絶好の教育旅行の場としてお薦めします。
壱岐教育旅行受入協議会事務局
九州郵船
TEL（092）281-0831
FAX（092）281-0444
URL http://www.mapion.co.jp